

## 実務ワークショップ報告

# 平成 27 年度実務ワークショップ「寄託される微生物株の品質向上に向けたカルチャーコレクションの取り組み」

日本微生物資源学会実務担当小委員会

坂本光央

(国立研究開発法人理化学研究所バイオリソースセンター (JCM))

伴さやか

(独立行政法人製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター (NBRC))

林 将大

(岐阜大学生命科学総合研究支援センター嫌気性菌研究分野)

森 史

(国立研究開発法人国立環境研究所微生物系統保存施設 (NIES))

永井利郎

(国立研究開発法人農業生物資源研究所遺伝資源センター (MAFF))

微生物の新種提案が加速する今日において、カルチャーコレクションの役割がますます重要になってきている。2002 年以降、原核生物については新種提案する場合、基準株を少なくとも二カ国以上のカルチャーコレクションに寄託し、第三者（利用者）が制限なく利用できるようにすることが国際原核生物分類命名委員会（International Committee on Systematics of Prokaryotes, ICSP）により求められている。この ICSP の勧告により、新種提案が比較的盛んな中国、韓国、インドなどから日本のカルチャーコレクションへの微生物株の寄託数が近年増加している。カルチャーコレクションは寄託者から寄託された微生物株を保存し、利用者に保存した微生物株を提供するという業務を日々繰り返している。しかし、この単純に思える作業をスムーズに行うためには、新種提案をする寄託者とカルチャーコレクション両者が協力し、微生物株の品質を維持・向上していくことが不可欠である。

今回の実務ワークショップでは、3 名のカルチャーコレクションの方々に、微生物株の寄託と品質向上に関する取り組みや問題点などについて紹介して頂いた。特に前述の各国の研究者から微生物株が寄託される際の書類上の不備や微生物株の汚染など、様々な問題点が紹介され、カルチャーコレクションの苦勞が垣間見られた。詳細は演者の先生方がまとめられた後述の解説をご覧頂きたい。短いながら活発なディスカッションも行われ、カルチャーコレクションとしての今後の対応を考える良い機会となった。本ワークショップを終え、今後は微生物の新種提案をする各寄託者もカルチャーコレクションの取り組みに対してより一層の理解を示し、そして微生物株の品質向上に向けてより一層の協力をして頂ければ幸いである。

末筆ではあるが、最後に快くご講演を引き受けてくださった先生方、そして本ワークショップに参加された皆様に厚く御礼申し上げたい。

注：実務ワークショップはカルチャーコレクションの実務担当者へ情報提供などを行うことを目的として企画され、文書管理・情報管理・品質管理・コンプライアンスなどもテーマとして取り扱っています。



左より、藤田克利先生 (NBRC), 押田祐美先生 (JCM), 森 史先生 (NIES)

#### 概要

大会名：日本微生物資源学会第22回大会

日 時：2015年9月10日(木) 9:30-11:00

場 所：鳥取県鳥取市・とりぎん文化会館第1会議室

9:30-10:00 演題1：JCMにおける寄託の現状と寄託受入体制の整備 押田祐美 (JCM)

10:00-10:30 演題2：NBRCにおける寄託時の問題点への取り組み～ファージと組換え体を例に～  
藤田克利 (NBRC)

10:30-11:00 演題3：NIES藻類コレクションにおける寄託対応と問題点  
森 史 (NIES)  
(敬称略)